

宝塚市

豊かな感性を育むあそび
～自然物を通して～

発表者：野上幼稚園

中畑 茜 木津 伊織 上田 茉奈 山本 ひかる

1. はじめに

本園は、阪急今津線逆瀬川駅から山手へ15分ほどの住宅地にある。

高低差を利用した園庭での外遊びが大好きな園児は、季節の遊び等を楽しみながら自分らしさを発揮し、友達とのびのびとした園生活を送っている。

異年齢間の交流も多くみられ、5歳児（年長組）が年少の友達に優しく関わる姿は、代々自然と引き継がれている。

2. 研究目的・設定理由

自然豊かな地域にあり、園庭にも様々な種類の木や雑草が育っている本園の園庭遊びでは、毎日様々な遊びが繰り広げられている。これまで、子どもたちは自然遊びをする中で、葉をちぎってそのまま地面に捨ててしまったり、花を摘むだけの姿があったため、自然を大切にし、さらに自然遊びを楽しめるように今回の取り組みを行った。

3. 研究方法・実践内容

子どもたちの姿から【ねらい】をさだめ、学年ごとに自然遊びを楽しめる環境を整えた。

【ねらい】 身近な自然に触れ、興味・関心を持つなかで、

- ・自然を大切にする
- ・生命の尊さを知る
- ・好奇心、探究心を育む
- ・豊かな感性を育む

	3歳児（年少組）	4歳児（年中組）	5歳児（年長組）
4月			春探し
5月	栽培（オクラ）	栽培（きゅうり）	栽培（ピーマン）・顕微鏡・色水遊び（ツツジ）・春の図鑑・泥団子
6月	水遊び・泥遊び	水遊び	葉っぱ探し・葉っぱビンゴ・水遊び・泥遊び
7月	栽培物を使ったクッキング	栽培物を使ったクッキング・泥遊び・砂遊び・色水遊び	栽培物を使ったクッキング
9月	葉っぱスタンプ・木の枝を使った製作（ライオン）		
11月		木の実遊び・葉っぱ遊び	壁面（自分だけの木）・どんぐりの研究・落ち葉のアクセサリー
12月	きんかん・きんもくせい・ヒヤシンス		

4. 実践事例

3 歳児（年少組） 5～7月 『栽培・クッキング』	
ねらい	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗の育ちを見て大きさや色、触り心地を感じる。 ・ 友達と食べる喜びや楽しさを味わい、食物の大切さに気付く。 	(栽培) オクラの苗 (クッキング材料) オクラ、コーン、ツナ あらかじめゆでたそうめん
流れ	導入や取り組み前の様子
(栽培) <ul style="list-style-type: none"> ・ 期待をもてるよう、何になるか子どもたちには伝えず、葉の様子などに、より関心をもてるように、環境を整えた。 ・ 毎日、当番の子どもが水やりをした。 (クッキング) <ul style="list-style-type: none"> ・ オクラを切るとどのような形になるのか絵本を読んだ。 	(栽培) <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗の種類を予想する際に、子どもたちが身近な花の名前を挙げる姿があった。花以外にも目を向けられるように、身近な野菜の花や実、葉の様子を写真で載せた『やさいずかん』を作成し、子どもたちが手に取りやすい場所に置いた。 (クッキング) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「やさいべたべたかくれんぼ」の絵本を読み、輪切りにするとどんな形になるのかを期待もてるようにした。
子どもの様子	環境構成【保育者の援助】
(栽培) <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗を見せると、葉の形を見たり、匂いを嗅いだりしていた。 ・ 初めは苗の名前は伝えずに子どもたちに予想を聞くと、「だいこん」「ピーマン」など、知っているものの名前を挙げていた。 ・ 苗が大きくなり、葉の裏に虫が集まったことで葉の一部が丸まると、すぐに気付いていた。 ・ 『やさいずかん』を読み、写真と見比べて「○○なのかな？」と想像して、育つものへの期待感を持ち、待ち遠しそうにする様子があった。 (クッキング) <ul style="list-style-type: none"> ・ オクラを切ると断面が星の形になることを見つけて、喜んでいました。 ・ オクラを食べたことがない子どもや野菜が苦手な子どももいるが、自分たちで作った野菜を「食べてみよう！」と前向きな様子が見られた。 ・ 野菜が苦手な子どもは保育者と一緒に匂いを嗅いだり、口につけてみたりした。チャレンジした子どもは、「おいしい」と言って食べられたことを喜んでいました。 	(栽培) <ul style="list-style-type: none"> ・ 『やさいずかん』は、様々な野菜の葉の形や、花の色、どのように成長するのかを見比べやすいようにした。 ・ 成長の過程がわかりやすいよう、苗の様子を写真に撮って保育室に掲示した。 ・ オクラは初めは切らずに見せ、輪切りにした時の断面の形に期待できるような声掛けをした。 (クッキング) <ul style="list-style-type: none"> ・ オクラを食べる時には「みんなで作ったから美味しいね」と、育てた命に感謝して、食べる喜びや楽しさを味わえるように声掛けをした。 ・ 野菜が苦手な子どももいるが、近くで見たり、匂いを嗅いだり、口に1度つける経験はできるようにした。
考察・反省	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな苗が成長して花が咲き、実がなる一連の流れを近くで観察し、植物も生きていることを実感できたように思う。 ・ 野菜が苦手な子どもでも興味を持ち、前向きに期待をもって食べようとする姿が見られてよかった。 ・ 普段の食事はどのようにして作られているのかを伝え、食の大切さを考えられるようにした。 ・ 他の野菜へも関心が向くように野菜の絵本を読み、興味の幅を広げられるようにした。 ・ 隣に植えている他学年の野菜の苗にも興味を示しており、野菜に関心をもつ良い機会となった。 (まとめ) 育ててきた栽培物を使用したことで、より興味を持って取り組んでいた。苗から実へ育っていく成長を見たり、触ると少しチクチクとする感触に気づいたり、切った形が星になっていることを発見したりと、様々な気づきを通して、楽しく食べてみようという意欲に繋がったと感じた。	

4 歳児 (年中組) 7月 『砂遊び(砂絵・砂時計)』	
ねらい	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・砂の大きさや手触りに違いがあることに気付く。 ・感触を楽しみ、手のひらの感覚を高める。 ・砂遊びへの興味を深める。 	<p>〈砂絵〉 砂を入れる箱、B5 の画用紙、糊</p> <p>〈砂時計〉 乳酸菌飲料(R1)のボトル 2 個 (R1 のボトルの口の大きさに合わせた厚紙の真ん中に穴を開けておく)、おもちゃのスコップとふるい</p>
流れ	導入やこの取り組み前の様子
<p>〈砂絵〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.箱の中に園庭の砂を集める。 2.指に糊をつけて画用紙に絵を描く。 3.画用紙の上に砂を振りかける。 4.振りかけた砂をはらい、完成。 <p>〈砂時計〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.R1 のボトルに自由に砂を入れる。 2.用意した厚紙を R1 のボトルの口にテープで止める。 3.2 のボトルとふたがない R1 のボトル同士の口を合わせ、ビニールテープで止める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらさらの砂を作ることを楽しむ。 ・外遊びで、砂で遊ぶ子どももいれば、全く砂に触れない子どももいる。
子どもの様子	環境構成
<p>〈砂絵〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糊が苦手な子どもも積極的に楽しむ姿が見られた。 ・画用紙に振りかけるときに、砂の量を調節しながらかける姿があった。 ・画用紙に糊がたくさん付いているところに砂が集まることに気付いていた。 <p>〈砂時計〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂を集める時に、砂の大きさを気にせず集める子どももいれば、ふるいや遊具(ゆり木馬)を使ってさらさらの砂だけを集める子どももいた。 ・ゆり木馬の上に砂を置き揺らすことで、粒の大きさによって異なった動きをし、重い砂は落ち、軽い砂が残る。そのことによって、子どもたちは無意識のうちに、さらさらの砂が作られることを学んでいる。 ・砂を入れて出してを繰り返して楽しむ姿が見られた。 ・完成した後は、砂時計の砂が落ちるのを見たり、友達とどちらが早く砂が落ちるか競走をしたり、何砂で落ちるか数えたりして楽しんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂の集め方は、子ども自身が考えられるよう集め方は伝えず、スコップやふるいなど道具を置いておく。  
考察・反省	
<ul style="list-style-type: none"> ・砂絵では、導入で色々な絵を提案したが、自由に描くのが難しい様子が見られた。 ・砂に何度か触れ合っていたため、後日泥遊びをしたときには砂の種類を使い分けて遊ぶことができていた。 ・1カ所だけではなく、園庭の様々な場所の砂を観察してもよかった。 <p>→その場所によって、どんな虫がいるのか、どんな葉っぱがあるのか、砂の質感に違いがあるのかなど</p> <p>(まとめ)</p> <p>砂時計の砂が少しずつ落ちていく様子を不思議そうに観察し、途中で砂が止まってしまったときには、砂の粒の大きさや穴の小ささによるものだと考え、砂の性質に気づく姿が見られた。</p>	

5歳児（年長組） 6月 『葉っぱ探し』	
ねらい	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・園庭にある葉に触れ、形や触覚、色や匂いに違いがあることを知る。 ・グループの仲間と協力して観察し、親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉を分ける箱（“さらさら”“ふわふわ”などの特徴を書いておく）→子どもの発言から箱の種類を増やせるよう空白の箱も用意しておく
流れ	導入やこの取り組み前の様子
1.グループに分かれ、園庭の葉を探す。 2.探した葉を特徴に当てはまる箱に入れる。 →フロッタージュコーナーと絵の具スタンプコーナーを保育室に用意し、葉を遊びに取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室で園庭にある葉を数種類紹介し、どのような見た目、触触なのか、葉の特徴について話し合う。（ざらざら・匂いがする・丸い…）
子どもの様子	環境構成
<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに葉を見つけ、触ったり匂ったりして、どのような特徴があるのか話し合う姿があった。 ・びわの葉は様々な特徴があり、多くの子どもが集まり話し込む姿がみられた。（→硬い、つるつる、裏はふわふわ…） ・木に生えている葉は柔らかく、落ちていた葉が硬いことに気付く子どももいた。（「葉っぱ喉が渴いているのかな」という発言があった） ・フロッタージュや絵の具スタンプをすることで、葉の葉脈の模様が違うことに気付く。 ・「僕はこの葉っぱが好き」とお気に入りの葉を見つけた子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に特徴的な葉を把握する。 ・子どもの声を聞き、新しい箱を増やしていった。  
考察・反省	
<ul style="list-style-type: none"> ・集めた葉が風でとんでしまう。 ・普段、手に取らない、目に入らない葉にも目を向け、観察する姿があった。 ・葉を分けた後の遊びは、それぞれクラスの子どもの意見を聞き、興味のあることを取り入れたことが良かった。 ・『葉っぱ探し』では、植物の名前に触れることが少なかったが、これから植物の名前を知っていきたい。子どもたちと植物に親しむため、保育者自身が園庭にある植物の名前や特徴を学び、遊びに繋げられるよう努める必要があると感じた。 <p>（まとめ）</p> <p>様々な体験を通して、葉によって色や形が異なること、触ってみると質感が違うこと、それぞれの匂いがあることなどに気づいていた。五感を存分に働かせることができていたこの活動は、子どもの育ちにとって良い経験になったと感じる。</p>	



3歳児（年少組） 9月 『葉っぱスタンプ』	
ねらい	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に親しむ。 ・葉の模様をつけることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラとアベマキの葉 ・絵の具(やまぶき色・朱色)
流れ	導入やこの取り組み前の様子
<p>※事前に画用紙にタンポで木の幹をスタンプした</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.葉にスポンジで絵の具をつける 2.画用紙に置いて上から手で擦る 3.そっとめくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・外あそびで葉やどんぐり、枝などの自然物に触れる姿があった。 ・葉の感触(ザラザラ、つるつる)に気付き、子ども同士で話していた。
子どもの様子	環境構成
<ul style="list-style-type: none"> ・葉に絵の具をつけるときの力加減によって絵の具のつき具合が変化することに気付いていた。 ・葉スタンプがどのような模様になるのかを期待していた。 ・擦る具合によって模様のつき方が異なるため、繰り返す中で満遍なく擦ろうとしていた。 ・やまぶき色のスタンプをした上に、朱色のスタンプを重ねて、色の重なりを見ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に葉脈の凹凸がはっきりしている葉を準備した。 ・葉は子どもがスタンプしやすいように、厚紙に貼った。
考察・反省	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の前後に秋の自然物に関する絵本を読んだことで、よりイメージがしやすかったように感じた。 ・スタンプをしたことで、より細かい葉の模様や形に気付いていた。その後の外遊びでは、葉脈の模様の様子や手触りに興味をもつ子どもが増えた。 ・今回は、園にある葉の種類がスタンプ向きではなかったことから、保育者が事前に準備した葉を使用した。十分楽しんでいたが、自分で拾った葉を使用すると、より模様の違いに気付けたかもしれない。 <p>(まとめ)</p> <p>見て、触って、葉の葉脈について知り、スタンプをするとどんな模様が出てくるのだろうかというイメージすることで想像力を高めることができた。また、スタンプをしてみると不思議な模様が現れる様子に面白さを感じ、自然物に興味を持つきっかけとなった。</p>	



4 歳児（年中組） 7月 『泥遊び』	
ねらい	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・水の量で泥のかたさや感触が変わることに気づく。 ・自在に変わる様々な泥の感触から手のひらや足の裏の感覚を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スコップ、バケツ、玩具 ・たらい
流れ	導入やこの取り組み前の様子
<ol style="list-style-type: none"> 1,汚れてもいい服に着替え、裸足になる。 2,泥遊びでの約束を確認する。 3,自由に遊ぶ。 4,使った道具をたらいの中で洗う。 5,自分で手足を洗い、仕上げは保育者がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が降った翌日などは園庭に大きな水たまりができ、そこには沢山の子どもたちが集まり、遊びたい様子が見られる。しかし、環境や服装などの準備が整っていないため、目一杯遊ぶことができない。
子どもの様子	環境構成
<ul style="list-style-type: none"> ・初めは恐る恐る泥に向かう様子だったが、慣れてくると全身を使って楽しむ姿が見られた。 ・「気持ちいいね」と泥の感触を楽しむ。 ・スコップで掘って川を作ったり、泥団子をきれいに作ることに集中していたり、お尻から泥に浸かり温泉に見立てていたりとそれぞれが遊びを見つけて楽しむ姿が見られていた。 ・汚れたくない気持ちがあったり、泥の感触が苦手な泥の中に入るのを拒む子どもがいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を行う前に、泥遊びをする場所の砂に水を撒き、泥の状態しておく。 ・スコップやバケツなど子どもたちが自由に使えるように用意する。 ・片付けの時に子ども自身が手足や玩具を洗えるように、水の入ったたらいをいくつか用意する。
考察・反省	
<ul style="list-style-type: none"> ・気温が高かったため、場所によっては泥が乾いていた。そのときには水を足して遊ぶこともあった。 ・砂遊びで何度か砂に触れ合っていたため、泥遊びを行ったときには砂の種類を使い分けて遊ぶことができていた。 ・天候やカリキュラムの関係で1回しか取り組むことができなかった。継続して何度か楽しむことでもっと遊びが広がっていったのではないかと思う。 <p>（まとめ）</p> <p>手のひらだけではなく、足の裏や体全体を使うことで、手とは違った感じ方を楽しむことができた。夢中になって遊びこむ中で、砂と水の配分によって、泥の硬さや手触りが変わっていくことに気づく様子が見られた。</p>	



5歳児（年長組） 11月 『秋の自然遊び』	
ねらい	子どもの様子
<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を“採る”だけではなく、それらを遊びに活かして、楽しさを味わう。 ・1学期に触れた植物や木々の変化を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのやりとりで、自分たちで考えた遊びを展開させている。 ・自然に興味を持つ子どもが増えた。
子どもの活動	環境構成・考察・反省
<p>〈秋への変化を感じた子ども〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊び中、クラスで集合している際に、園庭の木や葉が赤くなったり、イチョウの葉が黄色くなったりしている様子が目に入った子どもが、「見て!葉っぱの色、どんどん色が変わってる!」と、周りに伝える。 ・周りの子ども達もそれに気付き、みんなで「あーき!あーき!あーき!」と、手拍子でリズムをとりながら口にし、秋への変化をともに喜んでいく様子があった。 ・昨年度、雪が降ったことを覚えていたA児。「冬になったらまた雪が降るかな?雪が降ったらみんなで雪合戦とか、雪だるま作ったりしようね!」と嬉しそうにしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活や1学期の取り組みの中で、園庭の木々の春や夏の様子を把握していたことで、より変化を喜んでいく。また、それらを友達と一緒に共感できるのが嬉しそうであった。 ・自然も生きていくということを、身近に感じていくのではないかなと思う。 ・四季を楽しむ心が少しずつ育まれていることを感じた。
<p>〈落ち葉のアクセサリ作り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、落ち葉に触れ、様々な形や色があることに興味をもっていたため、落ち葉で穴通しをすることになった。 ・落ち葉の中には折り曲げても弾力のある葉と、パリパリと崩れてしまうものがあることに気付くB児。「触ってみて、ツルツルで強い葉っぱだけ集めるのはどう?」と、提案していた。 ・集めていくうちに葉の後ろに虫がいることに気付いたC児を中心に、水で葉を洗い、乾かしてその日の保育は終了した。 ・次に葉に触った時には弾力があつた葉も、パリパリになっていることに気づく子どもがいた。 ・自分で気に入った葉にパンチで穴を開け、糸を通して、ネックレスやブレスレットを作り、身につけて自由活動を楽しんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、普段からきれいな葉を見つけると担任にプレゼントする姿がよく見られていた。そのことから保育者は子どもたちと共に、遊びにできないか考えた。 ・触った感触で葉を選んでおり、イチョウや桜の葉を集める子どもが多かった。 ・拾っている時点で、同じ見た目の葉でもツルツルしている葉とパリパリしている葉があることに疑問を持つ子どももいた。乾燥している葉だと崩れやすいことをみんなと共有できていた。 ・弾力のあつた葉も、時間が経つと乾燥していくことを知るきっかけとなった。
<p>〈葉の掃除〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉が集まりやすい場所や階段は、普段職員が箒で掃除しているが、その様子を見ていた子どもが興味を持ち、手伝おうとする。 ・子ども用の箒を使って、掃き方を試行錯誤しながら、落ち葉を集めようとする。 ・片手で箒を持ち、もう片方の手に持つちりとりを集めようとするが、苦戦していたC児。それを見ていたD児が「手伝おうか?」と、ちりとりを受け取り、協力しながら落ち葉を集めていた。また、D児はC児が落ち葉を入れやすいように、立ち位置を自分で考えることができていた。 ・協力して上手く集められたことが嬉しかったようで、クラスに戻ってから二人で嬉しそうに話す様子があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が自由に手に取れる、子ども用の箒を数本用意している。(使う時は職員がそばにつき見守る) ・「葉っぱ、集めよう!」と、周りに声を掛け、楽しむ様子がある。 
<p>(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の移り変わりとともに、葉の色に変化があることを遊びの中で知った。 ・枯葉を踏んだときの感触や面白い音に興味を示し、遊びが広がる様子が見られた。 ・枯葉は時間が経つと乾燥して感触が変わることや扱い方にも工夫があることに気づいた。 ・葉の掃除では、掃き方や集め方を友達と相談し、協力することで自分たちで考える力やコミュニケーション力が育まれていくと感じた。 	



5. 終わりに

自然物を通じた遊びでは、ゲームなどの人工的な遊びとは異なり、予め提示されたルールや正解がない。その為、子どもたちは自然を目の前にして柔軟な発想で自由に遊ぶことができる。友達と一緒に試行錯誤し、自由にやってみることで、創造力や、仲間と協力する力が育つことを改めて感じた。また、保育者が準備した環境だけではなく、自分なりの考えで見つけ出した自然遊びを友達や保育者に認められることで、更に積極的に挑戦することから、自発性や主体性の育ちにも繋がると考える。

子どもたちは自然の不思議さや美しさを遊びを通して感じていた。このような自然あそびの体験から、好奇心や探究心が生まれ、生命の尊さや自然を大切にする心へと繋がっていくのではないだろうか。

今後も身近な自然に触れ親しみながら、豊かな感性が育むことができる、より良い環境づくりを目指して、保育を行っていききたい。